

2024年度開発協力人材育成事業：募集分野

募集分野		登録番号	
■募集分野	水産ブルーエコノミー	■募集人数（人）	1
■学位	修士		
■担当部署名	経済開発部 農業・農村開発第一グループ		
■募集の背景			
<p>水産業は、開発途上国において多くの雇用を創出するとともに、栄養価に富む食材を国内生産することで食料・栄養安全保障上も重要な役割を果たしています。また、水産物には国境を越えて広く流通する「国際商材」（途上国からの輸出農産品中第一位）としての側面があり、外貨獲得のみならず地方経済の発展にも貢献しています。近年、水域資源や沿岸環境を経済活動として持続的に有効活用するブルーエコノミーが注目を集めており、開発途上国も開発と環境の共存を図る新たな取り組みとして高い関心を示しています。持続的なブルーエコノミー開発においては、共同資源管理など漁業者への働きかけに加え、生産から消費を俯瞰する水産バリューチェーン開発、観光業など他産業との連携、生態系保全など包括的な取り組みが求められます。こうした背景を踏まえ、水産業の枠組みを超えて環境や産業育成分野などにおいても広く知見を有し統合的な視野を持つ人材育成が急務となっています。</p>			
■本事業を通じて育成が期待される人材像			
<p>本ポストでは、JICA専門家やJOCV等の経験者が本事業を通じて水産ブルーエコノミー分野の修士号を取得することで、水産資源管理、水産物流通（6次産業化を含む）、漁村振興、里海創生、沿岸環境保全などに関する学際的・実務的な研究に関する知見を持ち、先方政府や国際パートナー機関との連携・協働を図り、専門家チームを統括するチーフアドバイザー等として活躍する人材が育成されることが期待されています。</p>			
■想定される大学院の研究コース（及び研修内容）			
<p>水産ブルーエコノミー分野の中でも、特に共同資源管理、保全と利用の両立、水産物流通、観光との連携による漁村振興などを研究することを想定。フィールドワークを行う研究課題が望ましい。</p>			
■参考情報			
<p>世界が抱える課題への取り組み（農業開発／農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html</p>			
■研修終了後に想定されるJICA事業参画の時期・期間			
<p>学位取得後に、1～2年程度JICA本部に勤務した後、専門家等として1年以上派遣されることを想定 *面接時及び合格発表時、研修中等に本人と適宜相談の上、業務内容は変更の場合がございます。</p>			
■募集要項に記載の応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
必須	当該分野に関連する3年以上の実務経験を有すること。		
必須	JICA専門家/海外協力隊として1年以上の派遣経験もしくは同等の海外経験を有すること		
■備考・留意点			
<p>食料安全保障や栄養の観点から水産ブルーエコノミー振興の重要性が高まっています。水産ブルーエコノミー振興においては、特定の水産分野（漁業、養殖、資源管理、食品加工など）の高い専門性のみならず、水産業の枠組みを超えた幅広い分野の知見が求められます。国際的な水産ブルーエコノミーの最新動向を把握しつつ、幅広い分野の知見を備えた人材となることを期待しています。</p>			